

令和4年度 第1回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和4年9月29日（木） 14時00分～15時30分

2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 会議室101

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（7名）

益川 浩一 委員（岐阜大学地域協学センター長・教授）
江良 友子 委員（愛知学泉短期大学准教授）
山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表、市民協働推進委員）
葉山 栄子 委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学非常勤講師）
三矢 勝司 委員（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた
事業推進マネージャー）
神谷 良夫 委員（市民公募委員）
三井 節代 委員（市民公募委員）

(2) 欠席委員

なし

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

安藤治樹（社会文化部長）、加藤恭典（生涯学習課長）、鈴木智（同課総務企画係長）、小川正紀（同課施設管理係長）、林宏樹（主事）、鍋田志郎（中央図書館長）、大村しのぶ（同館副館長）、杉山優樹（同館総務係長）

5 傍聴者等

0名

6 委員長・副委員長選任

委員からの推薦はなし

事務局から益川委員を委員長に、江良委員を副委員長にとの提案あり
全員異議なしで益川委員長、江良副委員長を選任

7 委員長挨拶

(内容省略)

8 議題

(1) 「委員改選について」について説明

<以下、各委員の意見等>

特になし

(2) 「第3次岡崎市生涯学習推進計画について」について説明

<以下、各委員の意見等>

委員：電子図書館の現状について教えてほしい。

事務局：電子図書館は、コロナ禍で図書館に来られない方や障がいのある方へのサービスなどを基本に考えており、今は検討している段階である。他の県内の自治体の動向をよく調査し、岡崎市の特徴も活かして作り上げていきたい。

委員：電子図書館というのはあって当たり前前の時代だと思う。DXをどんどん進めていただきたい。

事務局：今後の検討の参考とさせていただく。

委員：講座についても電子化ができれば、市民が見たい時間に学べると思う。一つずつ実験的にやってみてはいかがだろうか。

事務局：電子化には、オンライン（中継）による学習と、動画視聴による学習の2つの意味があると考えている。前者はWi-Fiの環境整備などが必要と考えている。後者は、市の各施策を紹介する動画がYouTubeチャンネルに掲載されており、いつでもどこでも学べる環境作りが少しずつ進んできていると考えている。

委員：コロナ禍で、オンラインの活用が色々な側面で進んだと思うが、生涯学習の分野で、何か特筆すべき取組があれば教えていただきたい。

事務局：コロナ禍でDXへの取組は進められていないが、コロナ対策としては、受講人数を半分にしたたり、実施場所を大きな部屋へ変更したりしてきた。

委員：第3次岡崎市生涯学習推進計画の施策1の重点施策に挙げられている「障がいのある方への学習支援」は、とても大事だと考えているが、健常者だけの検討ではどうしても分からない部分があると思うので、実際に障がいのある方とも対話を重ねながら進めていただきたい。

事務局：関連団体とお話ししながら進めていきたい。

委員：施策5の「生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり」に関連するが、市民参画も含めての推進体制作りが大切であり、当事者とお話しするというのは大切な視点である。
また、SDGsの「誰一人として取り残さない」という視点があり、国も重要視されていることから、計画内で重点施策として位置づけられている。

委員：学んだ成果の発表の場や、社会へ還元する場についてだが、学んだことをどのように把握して、それをどのように発表の場につなげていくかを教えていただきたい。特にICTを活用して学習をされた場合、どなたがどういった学びをしたのか把握しづらいと思うが、そういった情報を集めるシステムやそれを発表する場について、どういった仕組みを考えているか教えていただきたい。

事務局：後ほど議題3で説明させていただくが、現在行っている取り組みとしては「りぶら講座」を実施しており、そこで市民が講師として他の市民に自らの知識を分かち伝えるということで学習成果を発表する機会を設けている。

委員：市民協働分野では、岡崎商業高校と連携して、良い取り組み事例を動画で配信している。生涯学習においても、同様の仕掛けが必要だと思う。

委員：広報は大事で、市民を活動へ誘うこともできるし、既に活動されている方のモチベーションアップにもつながる上、仲間が増えるという面もある。先ほどの発表の場、見える化という点とも絡めて、自らの知識などをどのように分かち伝えていくかは大切なことである。

委員：施策4の中に「地域と連携した情報提供」とあるが、額田にいと生涯学習の情報を身近で感じることができない。年配の方や子育て中の女性などのような対象者毎で、どのようなPRをしていくべきか検討が必要

と思う。

また、市職員出前講座もあるが、10名以上のグループ向けの講座であるため、個人が何か学びたいと思ったときに、どういう道筋があるのか、PRをしていただきたい。

委員：対象や地理的な配慮など、誰も取り残さないという視点で取り組むことは大切である。

(3) 「取組状況」について説明

<以下、各委員の意見等>

委員：実績が資料に掲載されていないものについて、分かる範囲で構わないので、実績を教えてください。

事務局：おかざき生涯学習手帳については、半分以上は配布済みである。また、手帳内にあるスタンプラリーを全て埋めた方も1名出た。
図書館の有料宅配サービスについては、問い合わせが数件入っているが、現時点で希望者はいない。
図書館閲覧席利用に係る事前予約新システムについては、予約の受付を開始したばかりであるが、10月2日(日)の午前中は満席となっている。また、10月1日(土)の午前中も8割ぐらい埋まっている。

委員：おかざき生涯学習手帳についてだが、中高年が使うには少々可愛すぎるように感じた。もし次のデザインを考えることがあれば、控えめのデザインでも良いと思う。

委員：おかざき生涯学習手帳は、例えばアプリなどのIT化や学校のボランティア事業等との連動など、色々な方策がとれそう。
また、達成者が顕彰される仕組みは大事な視点であると思う。岐阜市では同様の取組で、市長から表彰してもらえる制度になっている。

事務局：補足になるが、おかざき生涯学習手帳の達成者には、奨励品に加えて市長名が入った表彰状もお渡ししている。

委員：おかざき生涯学習手帳についてだが、QRコード等を載せて、スマホですぐ検索できるようにするなどのDXの仕掛けが欠けている。市民の興味が湧くような仕掛けを考慮してほしい。

委員：定期講座・市民講座の課題として、民間の講座との重複があるが、趣味・嗜好的なものは民間に任せ、行政は違う取組に力を入れた方が良いのではないかと思うのだが、いかがだろうか。

また、りぶら講座の課題として市民講師のスキルアップとあるが、この課題は誰の課題と認識しているか。

事務局：趣味・嗜好的な講座については、見直しの時期に来ていると考えている。

また、市民講師のスキルアップについては、市の課題と考えている。市民講師により良く活躍していただくために、市民講師のスキルアップに取り組んでいきたいと考えている。

委員：市民講師のスキルアップは、第3次岡崎市生涯学習推進計画の「生涯学習を支援する人材の発掘・育成」に当たるものであり、いざ人に教えるとなると難しさを感じる方もいると思うので、一步を踏み出せるきっかけとして、講師の力量を育成していくことは必要だと思う。

また、市民センターの講座については、一見すると民間事業者の趣味・嗜好的な講座と同じように見えるが、民間事業者の講座とは目的が違い、新たなつながり作りや、成果を活かして社会貢献をしていく場を見据えた入口としての側面があると思っており、きわめて公共性が高い取り組みだと考えられる。行政としてなぜその取り組みを推進するのか、明確化する必要があると思う。

委員：市民センターや地域交流センターなどで様々な講座を開催しているが、特段の違いは感じられない。そういう視点からすると、市民が何かを学びたいと思って講座を探すときに、市民センターと地域交流センターのどちらも確認しなければならないため、ワンストップで調べられるところがあると便利だと思う。

事務局：御指摘については市でも必要と考えていることから、第3次岡崎市生涯学習推進計画で重点施策と位置付けた。

委員：講座内容に施設の役割や特徴を反映させるには、それぞれの施設の役割設置意義、相互の関連性などを明らかにし、施設の構造化・系統化・ネットワーク化の整理も進めていただきたい。

委員：市民講座の講師をされた方が知人におり、参加のお誘いを受けたことがある。このようにして学びが広がっているのだと実感したため、市民センターの講座はどのようにあるべきか、行政として検討されたい。

委員：お金があるかないかで学びの広がりには差が出るというのも、平等性の観点から良くないと思う。
民間との連携、施設の差別化という点について、行政の考え方を整理しつつ、進めていく必要がある。

委員：情報のワンストップ化について、実現は難しいだろうとも思うが、色々な講座の主催者が情報を登録して、登録された情報をジャンルごとのチェックボックスで検索できるようなものが作れたら便利かなと思う。

委員：図書の有料宅配サービスについて、行きも帰りも有料だと思うが、郵送料はいくらぐらいかかるのか。

事務局：通常の宅配料金と同じ金額である。

委員：かなり厳しいと思う。

委員：利用の決め手は、やはり料金なのか。

事務局：確かに、無料であれば皆が使うと思うが、この事業は図書館に来られない方へ本を届けるための一つの手段であると考えている。
なお、Twitterでの発信や広報誌への再掲載、ホームページのトップページに掲載するなどにより周知に努めている。

委員：電子図書館を進めた方が良いと思う。

事務局：電子図書館サービスで利用者ニーズに沿ったかなりの数のコンテンツを提供することができれば、解消される面もあると思う。

委員：大河ドラマの放映を見据え、家康は生涯学習に活用されていくのか。

事務局：現在、図書館交流プラザ館内で漫画パネル展を実施しており、展示替えも予定している。こういったもので地元の武将を知っていただき、地元愛の醸成につながればと考えている。

委員：大河ドラマはチャンスだと思うので、生涯学習の中でも上手く活用されていくと良いと思う。

事務局：図書館交流プラザ1階にある岡崎むかし館でも展示をしており、今後展示替えも予定している。図書館内のテーマ展示でも、放映の流れに合わせて資料を展示していきたいと考えている。

また、講演会も企画中である。

委員：論点を整理すると、1点目として、DX・仕掛けをどう進めていくかを検討していただきたい。

2点目として、情報提供のあり方について、いかにきめ細やかにやれるか、ワンストップでやれるか、という点を検討していただきたい。

3点目として、成果を発表する仕組み、見える化の仕組みを更に促進していただきたい。

4点目として、施設の差別化、民間事業者との差別化について、行政としての位置づけを整理し、行政がやるべきもの、民間事業者と連携してやるべきもの、民間に任せるべきものの整理を進めていただきたい。

この4点が御意見として挙がりましたので、事務局として受け止めていただきたい。

これらに加えて、私としては、Withコロナの観点でどのように生涯学習事業を進めていくのかを御検討いただきたい。

また、国の第4期教育振興基本計画が来年度から動き出す予定であり、その中でSociety5.0やWell-beingといったことを、教育を通して進めていくという方針が出てきている。同様にリカレント教育や、福祉と教育の連携といったことも盛り込まれてくると思われる。

「だれとでも」というキーワードも出てきている。これらも視野に入れて、第3次岡崎市生涯学習推進計画もバージョンアップさせられたらいいと思う。

それから、学校教育の観点ではあるが、「個別最適な学びと共同的な学び」というキーワードも出てきており、こういった観点も取り入れていただけると良いと思う。

本日の会議で出た御意見を踏まえて、第3次岡崎市生涯学習推進計画を更に推進していただきたい。

8 連絡事項 特になし。